

候様、御組中の可被仰觸候。請狀文言等御定に違、無故儀候はゞ、欠落仕候共、於公事場穿鑿有間敷候。爲其如斯御座候。以上。

萬治四年二月三日

横山 右近
菊池 大學
前田 七郎兵衛

本多 安房様
長九郎左衛門様
奥村 河内様
前田 對馬様
奥村 因幡様
横山 左衛門様 留守居

一八 奉公人御定期日前出替之

儀觸

當月出替奉公人、馬捕・鍵持・役人小者・草履取・あらしこ、去年如申觸候。自今以後、毎年二月廿日過出替り、奉公人宿貸し候者於有之者、宿主可爲越度候。若廿日過有付候者

有之候者、御定給銀之内日割を以引落、殘分相渡可申候。則御目付衆にも申渡候條、自然違背之者於有之は、急度曲事に可被仰付候。右之通御組中并御家來下々迄可被仰觸候。恐々謹言。

二月八日

横山 右近
菊池 大學

本多 安房様
奥村 河内様
奥村 因幡様
長九郎左衛門様
横山 左衛門様
前田 對馬殿 留守居

一九 奉公人年季を延べ召仕候

儀觸

年季奉公人之儀、在々百姓子共多持候者は、拾年をのべ、又者譜代等に遣度ものも有之由、相立御耳候處、百姓之勝

覺

手に候之間、以相對何ヶ年に而茂、年季を延候歟、譜代に而茂可召抱之。於然者、郡方は十村、浦方は其所之肝煎に相尋、召抱無稱旨番付出候はゞ、可召仕候之由被仰出候間被得其意、御組中可有御觸候。以上。

寛文六年十二月

岡嶋 五兵衛
津田 宇右衛門
岡嶋 兵庫
菊池 大學

二〇 在江戸奉公人居成召仕候

儀觸

覺

一、當年一季居下々奉公人、先請狀を以居成可召仕候。但、置替申度暇を遣候ものは各別之事。

一、暇をとらせ御國に相返候者は、如跡々組頭添狀を取可遣之。若御家中に而有付度と申者於有之は、其主人より奉公人に使を添、割場を相斷、帳面に記させ可申候。勿論替人召置候共、是又割場を可申斷事。

一、増給銀、其外跡々可爲御定事。

以上

寛文八年正月廿一日

二一 在江戸若黨暇を遣候儀觸

一、一季居之若黨、暇をとらせ御國に遣候はゞ、如御定面々組頭を斷、添狀を取可相返候。但、江戸に而御家中に有付候もの有之候者、其主人より狀を取、先主に相斷候様申渡、暇を遣可申候。以上。

寛文八年正月廿一日

二二 在江戸奉公人出替之儀御定

江戸引越面々奉公人之覺

一、在江戸之者召仕候下々奉公人、勿論毎年相對を以出替に可仕事。

一、暇をとらせ御國に相返候者は、如跡々組頭添狀を取可遣之候。若御家中にて有付度と申者於有之は、其主人より奉公人に使を添、割場を相斷、帳面に記させ可申候。勿論